



北海道地方労働組合生
産性会議

議長 池田 智昌

北海道地方労働組合
生産性会議（以下、北
労生）は、労働組合の
立場から、生産性運動
の推進と生産性組織の
育成強化を目的に、昭
和34年「生産性北海道
地方労働組合企画実践
委員会」として発足、

昭和44年に改称し、全
労生、北海道生産性本
部との連携の下、生産
性向上運動の労働組合
推進母体として、労働
者、経営者、学識者、
消費者などの関係者と
信頼関係を深めながら
活動を推進してきまし

循環にあるものの、先
行きについては慎重な
見方が広がりつつあ
り、今後、わが国がデ
フレ脱却と真の経済成
長を実現できるかどう
かは、民間投資を喚起
する成長戦略が着実に
推進され地方創生に向

を迎えており、今後日
本が経済成長を実現し
活力を維持していくた
めには、生産性の向上
が必須の条件となって
います。
北海道においても、
新幹線の延伸や202
6年札幌冬季五輪の立

きる産業構造への転換
を着実に図っていくこ
とが必要であると考え
ます。
こうした中、北労生
は改めて生産性運動の
原点に立ち返り、ダイ
バーシティやワークラ
イフバランスといった

北海道地方労働組合生産性会議の意義について

各人の能力や
多様な価値観

た。

現在わが国経済は、
デフレ脱却と経済再生
に向けた取り組みが進
められており、足元で
は景気が回復基調にあ
って雇用の増加や賃金
上昇に繋がり、それが
消費や投資の増加に結
びつくという経済の好

けた各種施策を含め、
まさにこれからが正念
場といえます。

候補など北海道が将来
発展していくためのス
テップを着実に歩みだ
しており、TPPの影
響を注視しつつ、北海
道経済の自立に向け

・生活実態に合わせた
働き方ができる民主的
労使関係の確立と社会
経済発展の基盤づくり
に向けて、生産性三原
則を再確認し、労働組
合の立場から生産性運
動の推進機関としての
役割を果たしていきま
す。

さらに、現在加速化
する少子高齢化と人口
減、経済のグローバル
化や第4次産業革命と
もいうべきIoTの進
展など、過去に類を見
ない構造的な大変革期

を注視しつつ、北海
道経済の自立に向け

合の立場から生産性運
動の推進機関としての
役割を果たしていきま
す。

減、経済のグローバル
化や第4次産業革命と
もいうべきIoTの進
展など、過去に類を見
ない構造的な大変革期

を注視しつつ、北海
道経済の自立に向け

合の立場から生産性運
動の推進機関としての
役割を果たしていきま
す。

減、経済のグローバル
化や第4次産業革命と
もいうべきIoTの進
展など、過去に類を見
ない構造的な大変革期

を注視しつつ、北海
道経済の自立に向け

合の立場から生産性運
動の推進機関としての
役割を果たしていきま
す。

減、経済のグローバル
化や第4次産業革命と
もいうべきIoTの進
展など、過去に類を見
ない構造的な大変革期

を注視しつつ、北海
道経済の自立に向け

合の立場から生産性運
動の推進機関としての
役割を果たしていきま
す。

減、経済のグローバル
化や第4次産業革命と
もいうべきIoTの進
展など、過去に類を見
ない構造的な大変革期

を注視しつつ、北海
道経済の自立に向け

合の立場から生産性運
動の推進機関としての
役割を果たしていきま
す。

減、経済のグローバル
化や第4次産業革命と
もいうべきIoTの進
展など、過去に類を見
ない構造的な大変革期

を注視しつつ、北海
道経済の自立に向け

合の立場から生産性運
動の推進機関としての
役割を果たしていきま
す。

減、経済のグローバル
化や第4次産業革命と
もいうべきIoTの進
展など、過去に類を見
ない構造的な大変革期

を注視しつつ、北海
道経済の自立に向け

合の立場から生産性運
動の推進機関としての
役割を果たしていきま
す。